

クラブから派遣された宇野かおりさんという女性で、ペンシルバニア大学の心理学部の学生でした。彼女もカウンセラーがジョンということで学校の内外で顔を合わせることも多く、学校やロータリーの書類など、お互いに情報交換しながら日々を乗り切りました。またカメラを常時携帯していて、例会などでの写真は彼女が撮ってくれたものが多く、非常に感謝しています。もう1人の奨学生はイタリアのピサロータリークラブから来たヤコポ・カルマッシです。彼は経済学が専門で、経済学大学院に訪問研究員として来ていました。彼はとてもエネルギッシュで、ロータリー以外でもよく週末には街に誘われました。

度々注意されていたことですが、やはり安全面は日本とは比較にならないものでした。友人の多くも窃盗・強盗の被害に遭っています。自分のいる寮の近辺でも銃を用いた強盗があり、キャンパス内であっても夜散歩することの危険性を改めて思い知らされました。聞くところによると大学の周囲は10年前には現在とは比較にならないほど危険であり、前学長が大学の周囲の街灯などの整備事業を大々的に行ったことによって犯罪が大きく減少したそうです。しかし現在でもキャンパス内外での事件が後を絶たず、殆どの生徒は電話一本で、しかも無料で利用できるシャトルやエスコートサービスを利用します。また学生などによるバイクパトロールが24時間体制で行われています。便利ではありますが、必要性があって整備されていると考えると慄然とさせられます。ペンシルバニア大学は一年間に47億ドルというアイビーリーグでも最大の予算を計上する大学ですが、周囲は余り経済的に豊かではない地域であり、そのため西に向かうにつれて治安は急激に悪化します。ウエストフィラデルフィアでの銃撃事件や殺人が朝のニュースに上らないことは稀で、キャンパスと内と外との違いには多に考えさせられました。

今回の留学中には、エッジヒルロータリークラブの他、エルキンスパークロータリークラブ (Elkins Park RC)、グレート・イースト・サンライザーロータリークラブ (RC of G.E. Sunriser)、チェスターブルックロータリークラブ (RC of Chesterbrook) のペンシルバニア周辺のロータリークラブ、それにメリーランド州ベルツビルにあるベルツビルロータリークラブ (Rotary Club of Beltsville) にご招待いただきお話をさせていただく機会がありました。内容としては自分の専門である歴史学や札幌の紹介などをさせていただきました。札サッポロビールの知名度はかなりのものですが、ロータリアンの皆様から受けた日本に関する質問の内、もっとも多かったのは「日本は今中国をどのように認識しているのか」というものでした。アメリカ合衆国においても、日本がかつて世界経済および世界政治に占めていた地位を中国が代わりに占めつつあるという認識があり、それが両国間の摩擦を生んでいるのではないかという関心があるようでした。一方、北朝鮮との関係については確かに質問されたものの、中国に関する関心ほどではないと感じました。クラブ間における連絡は非常に密であり、あるクラブのメンバーが他のクラブの例会に参加するというのも日常的なことのようでした。会場はレストラン、ホテル、教会で行われていました。各クラブの規模はそれほど多くなく、参加した例会では参加者は大体10-20名くらいでした。女性の会員の割合は大体5:5であり、たびたび日本のロータリアンの男女比についてたびたび質問を受けました。またこうした会合への参加の前後に、ロータリアンの家を訪れる機会があり、家族その他について色々とお話を伺う機会を得ました。建国期からの建築であるという家や移民としてのルーツを示す家族写真などを見せていただき、アメリカ合衆国が改めて移民の国であるということに認識すると共に、歴史が生活の中に生きているものとしてあるということに感銘を覚えました。

アメリカ合衆国を留学先として選んだのは、自分が日米関係を勉強しており、また最先端の歴史学を学びたかった為ですが、アメリカ社会について余り良いイメージを持

っていないのも事実です。実際に、社会的な不平等を日常的に目にしたり、その結果として頻発する犯罪に周囲の人間が遭遇したりといった事実は、日本とは全く異なる意識を持って生活することを必要としました。しかし、そうした性格の現実自体は日本にも存在しない訳ではありません。今回のフィラデルフィアでの生活は活気と善意に満ちた快適なものであったと実感しています。これはコミュニティのメンバーや、僕個人の場合ホストカウンセラーを始めとするロータリアンやその他多くの方々のお陰であり、今振り返ってみて改めて感謝しています。問題点・相違点だけがとかく強調されがちな合衆国ですが、そうした問題点を何とかコミュニティの中で解決しようとする人々の姿勢に大変感銘を受けました。異質なものとしてではなく共通の課題を持つものとして米国の社会を考えるという視点を大事に、これから研鑽を深めて参りたいと思います。



今後はロータリー学友会の一員としてロータリーと関わり、今回留学で得させて頂いた知見を深めて参りたいと存じます。このような素晴らしい機会を御耐え下さいまして、本当にありがとうございました。

* ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ *

第922 例会記録 11月7日(水) 一晴-

司 会：加我 稔幹事
 ゲ ス ト：伊藤正貴さん(帰国R財団国際親善奨学生)
 松橋由佳さん(派遣 ")
 金 甫珉さん(米山奨学生)
 ソフィ・マシューさん(交換留学生)

ビジター：札幌2名
 出席報告：

例会日	会員数	出席数	欠席数	規定除外	M.U	出席率
11月7日	53	28	19	6	-	62.00%
10月31日	53	26	18	6	3	64.00%
10月24日の確定	53	28	13	6	6	74.00%

会長・幹事報告

次年度派遣候補者ロータリー財団国際親善奨学生(6ヶ月文化研修)松橋由佳さん自己紹介
 留学希望先：米国
 出身校：北海道大学経済学部
 出発時期：2008年7月～
 2009年9月



会務報告

11/14は池上公介さんの卓話「叱り方の極意～出版秘話・迷話」

例会終了後定例理事会開催

ニコニコボックス

川村紀幸さん：誕生日を祝って頂きましてありがとうございます。67才になりました。平田博史さん：伊藤正貴さんR財団親善奨学生として1年間大変ご苦労様でした。実り多い成果があったことでしょう。松橋由佳さんも親善奨学生として、これから頑張ってください。藤森敏昭さん：伊藤正貴さん、成果をあげて帰ってこられたおめでとう。これからが勝負。頑張ってください。松橋さんも、これから大変ですがしっかり準備してください。露木 茂さん：おかげさまでこの仕事に転職して13年目を迎える事が出来ました。すべての方に感謝！ 加我 稔